

卒業生の強い愛校心を育てるため、芳名板の設置や芳名録を工夫。同時に理事長自ら関係強化に奔走

学校法人東京経済大学

【母校愛の強さ】

東京経済大学の卒業生は、母校愛が強く、寄付の多くは卒業生から受けています。2020年度では、寄付の全件数のうち、9割以上を卒業生が占めています。

法人の創立者である大倉喜八郎氏が敬愛する高齢の卒業生が数多くみられます。また大倉氏が提唱した建学の理念である「進一層」は、幅広い世代の卒業生に広く浸透していて、母校愛の強さを示しています。

法人の大きな特徴の一つとして、在学生の就職支援を行う卒業生独自の組織が設立されるなど、卒業生と在学生の強いつながりがあります。流通業界や金融業界・マスコミ業界などの各業界で活躍している卒業生が、在学生に対し就職相談を行っています。就職相談は在学生から好評であり、「自分も将来は後輩の就職相談に乗りたい」という声も多く、世代を超えた好循環が生まれています。また、大学の規模が比較的小さく、学生同士の横の「つながり」が強いことも、同大学の特徴になっています。

母校愛の強い卒業生が多く、卒業生同士の縦や横の「つながり」が強いことを踏まえ、法人では卒業生に対する募

金活動に力を入れています。卒業生の中には、繰り返し寄付をするリピーターも数多くいます。

法人では年2回、広報誌『東京経済大学報』を全卒業生と在校生向けに計7万通送付しています。広報誌の中に募金趣意書や振込用紙を同封し、卒業生に対して寄付を呼び掛けています。

また、寄付者が今後も引き続き寄付をしやすいとともに、新規の寄付者やリピーターの裾野を増やす工夫として、2022年12月にホームページのリニューアルを行っています。トップページからワンクリックで寄付のページに移動することができるようになり、閲覧者への利便性が向上しました。クレジットカードでの継続寄付も可能とし、「毎月」「年2回」「年1回」の3パターンから選択できるようになりました。

さらに、卒業生団体である葵友会(きゆうかい)と連携して募金活動を行っています。葵友会は現在、全国に55の支部があり、卒業生や教職員を含めた11万人の組織に発展し、卒業生の一大ネットワークとなっています。葵友会は1909年に発足し、その名の「葵」は、東京経済大学の前身である大倉商業学校の所在地であった、赤坂葵町に

由来しています。葵は現在、法人の校章にも使用され、シンボルとなっています。

法人では、理事長、学長、財務担当理事をはじめ、役員、評議員、葵友会支部長が募金活動の方法などを決定する「募金委員会」を運営しています。理事長は、卒業生が経営する企業や卒業生を直接訪問し、寄付の依頼を行っています。葵友会支部総会には、理事長に加えて財務担当理事や学長、学部長などが出席し、寄付の依頼を行っています。

創立120周年記念事業における寄付者芳名録の中には、寄付者の芳名以外に葵友会支部ごとの寄付額の目標額達成率の一覧が記載されています。目標達成を目指して会員に対し積極的に寄付の呼びかけを行う支部もあるなど、葵友会の支援は募金活動において重要となっています。

芳名録作成には、寄付の裾野を広げるといふ効果もみられます。愛校心の強さや、卒業生同士のつながりの強さを特徴とする法人において、卒業生は芳名録によって他の卒業生の寄付の状況を知ることとなり、「自分も寄付をしたい」というモチベーションにつながっています。

【記念プレートと寄付者顕彰】

母校に貢献した証を残したいという愛校心の強い卒業生が数多くいます。そのため、寄付者の芳名等の記念プレートの作成・掲示を重視し、卒業生の母校愛に促しています。また、定年退職を前に寄付をして自分の名前を残したいという教職員もみられ、卒業生のみならず教職員を含めて、法人へ貢献した証を残す風土が醸成されています。

例えば、2000年の創立100周年記念の際には樹木の現物寄付もあり、記念植樹が実施されました。校章にも描かれているフタバアオイを持ち入れた寄付者もいます。樹木の近くに「●●年卒有志一同」などと書かれた記念プレートを設置していて、その前で写真撮影を行う卒業生も数多くみられます。また、法人では顕彰制度を設けており、高額寄付者(個人で累計100万円



トップページからワンクリックで寄付のページへ

以上、法人で累計1千万円以上寄付）は、国分寺キャンパスの進一層館1階に設置された「高額寄付者芳名板」で顕彰されます。創立120周年記念事業の際には、1万円以上の寄付者の芳名を進一層館の芳名版に記載しています。ホームカミングデーでは寄付者が芳名板の前で記念撮影を行うなど、記念プレートは寄付者の母校愛を呼び起こすものとなっています。

さらに、累計寄付額が個人で500万円以上、法人で1億円以上に達すると、葵功労者顕彰の対象になり、芳名版への氏名記載のほか、感謝状、楯、記念バッジが贈呈されます。なお、累計500万円以上の個人寄付者は葵功労章、累計1千万円以上の個人寄付者と累計1億円以上の法人寄付者は葵特別功労章という称号が付与され、贈呈される記念バッジはその称号に応じたものになります。



創立120周年記念事業募金寄付者芳名板

【「進一層」募金】

周年事業以外の時期にも寄付を増やすため、2022年12月、建学の理念「進一層」にちなんだ恒常募金「進一層」募金を開始しました。

当該募金は法人経由であるため、それまで法人を通さず直接部活動を支援していた寄付者は、税制上の優遇措置（個人の場合は所得税の税額控除・所得控除、住民税控除。法人の場合は受配者指定寄付金・特定公益増進法人に対する寄付金による寄付金の損金算入）を受けることができ、寄付者にもメリットがあります。

当該募金には8つの募金目的

- ① 学生支援奨学募金
 - ② 研究奨励募金
 - ③ キャンパス整備募金
 - ④ 東経の森・水と緑の募金
 - ⑤ ゼミナール等支援募金
 - ⑥ 修学支援特別奨学寄付金
 - ⑦ スポーツ・文化振興募金
 - ⑧ 教育振興基金（在学生・父母・保証人対象）
- が設定されています。
- ① 学生支援奨学募金
「大学奨学基金寄付金」、「安城記念奨学基金寄付金」、「アドバンスプログラム推進基金寄付金」、「国際交流奨学基金寄付金」、「スポーツ振興基金寄付金」の5つに分かれていて、優秀な学生や難関資格取得を目指す学生などへの支援に充てられます。

② 研究奨励募金

専任教員の学術研究への助成・支援を目的としています。個人研究費の他、共同研究や国外での研究など、幅広く支援を行っています。

③ キャンパス整備募金

建物や施設の新設、リニューアルへの支援を目的としています。10年後を見据えて教育環境を整備し、学生の学びをサポートします。

④ 東経の森・水と緑の募金

キャンパス内の樹木整備への支援を目的としています。国分寺キャンパスは、国分寺崖線に沿って広がる「緑の回廊」の一部をなし、多種多様な動植物が生息しています。キャンパスの国分寺移転から70年以上守り続けた「東経の森」を今後も存続させるため、支援を募集しています。

⑤ ゼミナール等支援募金

ゼミ活動活性化のための支援を目的としています。教室でのゼミ活動に加え、海外を含む実地調査や資料収集などに対して支援します。

⑥ 修学支援特別奨学寄付金

新型コロナウイルス感染症に伴う学生への支援に充てられます。コロナ禍収束後は、「大学奨学基金」に組み入れる予定です。

⑦ スポーツ・文化振興募金

課外活動への支援を募っています。体育会系の部活においては特に卒業生同士のつながりが強く、寄付を通じて

部活動への支援につながっています。中にはヨット部のように、道具を揃えるのに多額の費用がかかる部活動もあり、「スポーツ・文化振興募金」が果たす役割は大きくなっています。

【古本募金】

2017年からは、古本募金の募集を開始しています。法人に寄付を希望する方で、不要になった書籍がある場合、書籍の換金額を法人への寄付とすることができま。

また、法人内でも不要になった書籍は古本募金として利用されています。大学院生が卒業の際に多くの書籍を残していくため、年々大量の書籍が蓄積されています。内容が時代にそぐわない古い書籍もあつたため、廃棄するよりは、少額であっても換金して教育・研究に役立てようと、この古本募金は開始されました。古本募金の対象となるには、ISBN（国際標準図書番号）が付されていることなど、複数の条件の古本募金のハードルとなることも多いですが、換金額が寄付金として奨学金などに充てられており、教育・研究に貢献しています。